

2015 年 5 月 12 日

各 位

オリックス株式会社
(コード番号: 8591)

2015年3月期 当期純利益は前期比25%増の2,349億円
6期連続で増益、8年ぶりに過去最高益を更新
2018年3月期 当期純利益は3,000億円を目指す

2015年3月期（2014年4月1日～2015年3月31日）の米国会計基準連結決算において、営業収益は前期比58%増の21,743億円、税引前当期純利益は同20%増の3,440億円、当期純利益は同25%増の2,349億円となりました。当期純利益は6期連続で増益となり、また2007年3月期以来8年ぶりに過去最高益を更新しました。また、2015年3月31日を基準日とする期末配当（1株当たり配当金）は、前期の23円から36円に増配いたします。

中期的には、資本効率性と健全性を維持しながら、持続的な利益成長を図り、2018年3月期には当期純利益3,000億円を目指してまいります。

■ 主な経営指標の推移

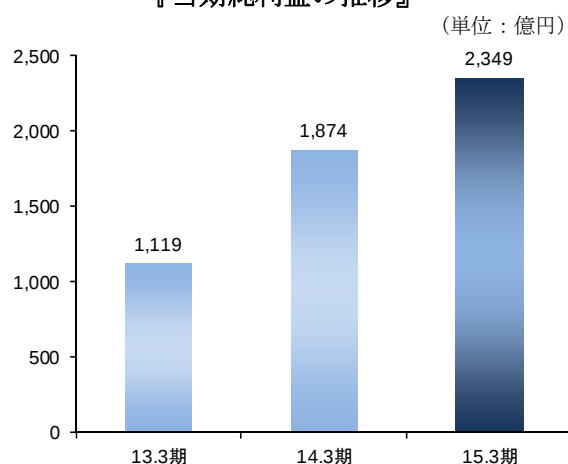
	2014 年 3 月 期	2015 年 3 月 期	増減率
営業収益	13,753 億円	21,743 億円	58%
税引前当期純利益	2,863 億円	3,440 億円	20%
当期純利益 ※	1,874 億円	2,349 億円	25%
株主資本当期純利益率（ROE）※	10.5%	11.5%	—

	2014 年 3 月 期	2015 年 3 月 期	増減率
総資産	90,670 億円	114,436 億円	26%
セグメント資産	72,678 億円	91,702 億円	26%
株主資本 ※	19,193 億円	21,522 億円	12%
株主資本比率 ※	21.2%	18.8%	—

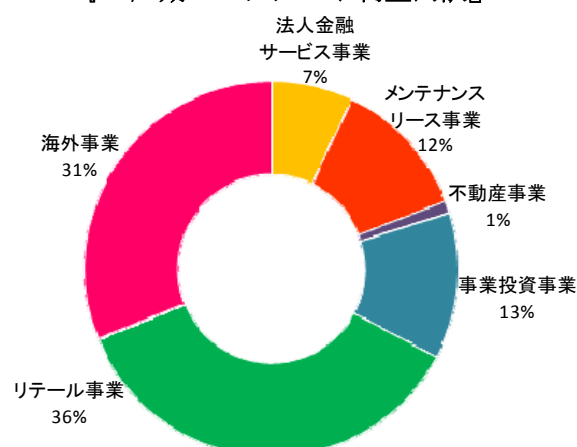
※「当期純利益」「株主資本」は、決算短信などの財務諸表で記載している「当社株主に帰属する当期純利益」

「当社株主資本合計」を記載しています。「株主資本当期純利益率(ROE)」「株主資本比率」は、当該株主資本合計を用いて算出しています。

『当期純利益の推移』



『15/3期のセグメント利益内訳』

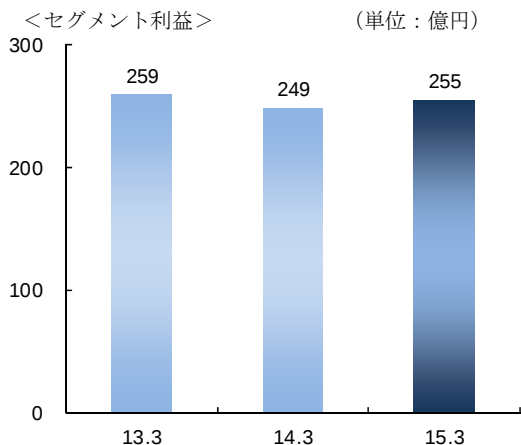


■ 各セグメントの業績概要（2014年4月1日～2015年3月31日）

当期は、「リテール事業部門」と「海外事業部門」の利益が大きく伸長し、「法人金融サービス事業部門」「メンテナンスリース事業部門」も堅調に推移しました。

【法人金融サービス事業部門】

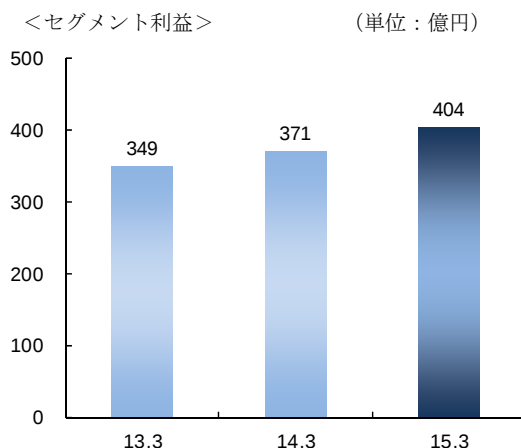
融資、リース、各種手数料ビジネス



- ・ 昨年12月に買収した弥生および太陽光パネルや生命保険などの販売手数料が順調。
- ・ 営業貸付金の平均残高減少に伴い、金融収益は減少。
- ・ セグメント利益は、前期比3%増の255億円を計上。

【メンテナンスリース事業部門】

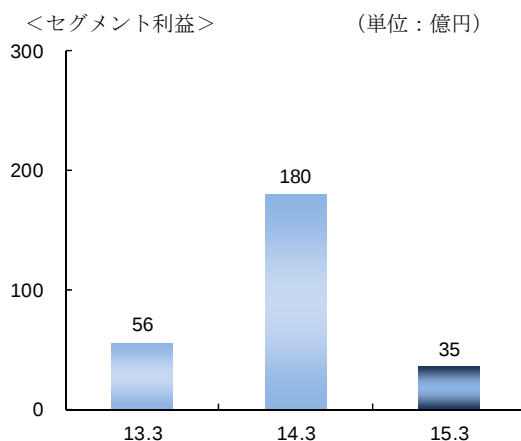
自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、電子計測器・IT関連機器などのレンタルおよびリース



- ・ 自動車事業が順調に拡大し、オペレーティング・リース収益と金融収益が増加。
- ・ 付加価値サービスからの収入も寄与し、収益性は高水準で推移。
- ・ セグメント利益は、前期比9%増の404億円を計上。

【不動産事業部門】

不動産開発・賃貸・ファイナンス、施設運営、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理、不動産投資顧問



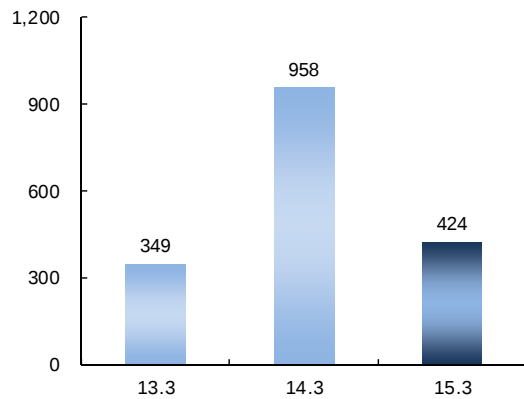
- ・ 賃貸不動産売却益と、運営事業や不動産管理事業からのサービス収入が増加。
- ・ 賃貸不動産の売却に伴い賃貸収益が減少し、また保有不動産の評価損を計上。
- ・ セグメント利益は、前期比81%減の35億円を計上。

【事業投資事業部門】

環境エネルギー、プリンシパル・インベストメント、サービサー（債権回収）

<セグメント利益>

（単位：億円）



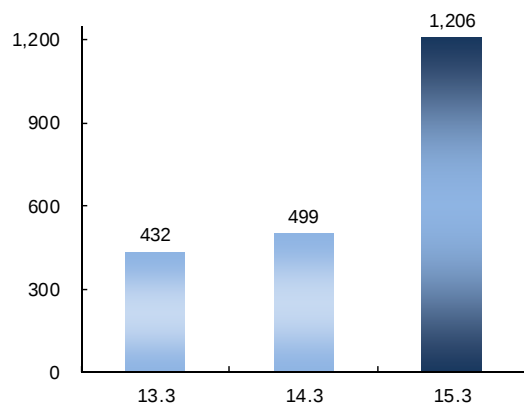
- ・新規投資先や環境エネルギー事業の貢献により、サービス収入が増加。
- ・14/3 期は大京の連結子会社化に伴う評価益を計上。
- ・セグメント利益は、前期比 56%減の 424 億円を計上。

【リテール事業部門】

生命保険、銀行、カードローン

<セグメント利益>

（単位：億円）



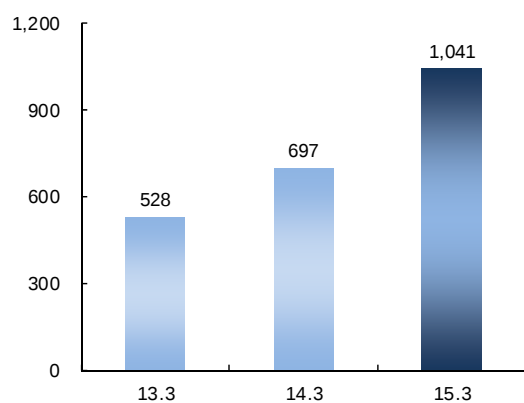
- ・ハートフォード生命保険の買収に伴いバーゲン・パーチェス益（負ののれん益）を計上。
- ・銀行事業における金融収益や生命保険事業における保険・運用収益が順調に増加。
- ・セグメント利益は、前期比 142%増の 1,206 億円を計上。

【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、投資銀行、アセットマネジメント、船舶・航空機関連

<セグメント利益>

（単位：億円）

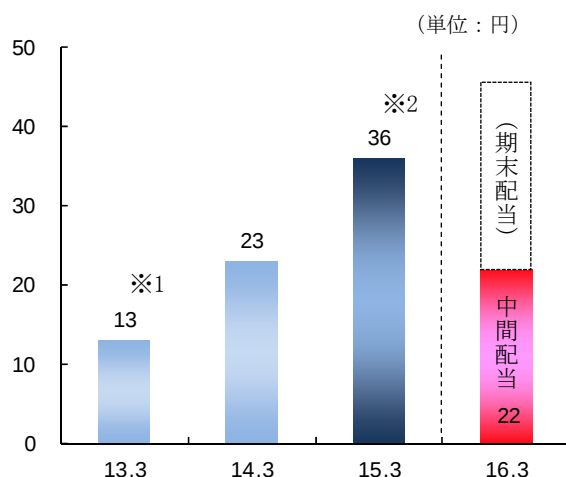


- ・ロベコのアセットマネジメント事業や米州の手数料ビジネスが貢献し、サービス収入が増加。
- ・韓国の投資先 STX Energy（現 GS E&R Corp.）の株式売却益を計上。
- ・セグメント利益は、前期比 49%増の 1,041 億円を計上。

■ 当期の配当金および次期の配当予想について

利益成長を踏まえて、当期の1株当たり配当金は、前期の23円から13円増配し、前期比57%増の36円といたします。

なお、次期（2016年3月期）からは初めて中間配当を実施し、基本的に年2回（中間・期末）の配当の実施を予定しています。次期の1株当たり中間配当金の予想額は、22円といたします。



※1 2013年4月1日付で1株につき10株の割合をもって株式分割を行いました。過年度の配当金についてはそれを考慮して記載しています。

※2 2015年3月期の配当金額は、計算書類の法定監査を経て、2015年5月20日に開催される取締役会において正式に決定される予定です。

■ 中期的な経営目標について

【目標とする経営指標】

資本効率性と健全性を維持しながら、安定的な利益成長の実現を目指します。

利益成長	2018年3月期に当期純利益 3,000 億円を目指す
資本効率性	ROE は 11～12%を目指す
健全性	格付 A 格を維持

【中期的な方向性】

強みと専門性を深掘りし、非金融事業の収益をさらに拡大します。自動車事業の国内外での拡大、弥生のプラットフォームを使った国内事業の新展開、海外における事業多角化、生命保険事業の拡大などの既存事業の成長に加え、成長性のある事業ポートフォリオへの入れ替えを重要な戦略と位置づけ、低収益・低成長資産の売却と、以下の重点分野への投資を継続的に実行してまいります。

環境エネルギー	- 今後3年以内に確保済みのメガソーラーをフル稼働 - 電力事業を拡大（新電力、風力・バイオマスなどの電源開発）
アジアの事業ネットワーク	アジアの事業ネットワークの拡充（インドネシア、カンボジアなど）
アセットマネジメント	アセットマネジメント事業の拡充（ロベコのさらなる成長、M&Aによる拡大）
PE投資	- 海外（中国・韓国など）における継続投資 - 医療、農業、ベンチャー、事業再生への投資

【株主還元と資本政策】

利益成長に向けた積極的な投資機会の獲得と配当との最適なバランスを重視します。株主資本の80%程度をリスクキャピタルとして使用し、20%程度を機動性・健全性のために留保することで、A格の格付を維持しながら成長を追求します。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL : <http://www.orix.co.jp/grp/ir/settlement/>

＜本件に関するお問い合わせ先＞

グループ広報部 藤井・堀井・中村 TEL : 03-3435-3167